
次元一甘党決定戦！

リーガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

次元一甘党決定戦！

【Nコード】

N3005U

【作者名】

リーガン

【あらすじ】

ありそうでなかなかなかった、甘党の、甘党たちによる、甘いものの大食い大会、『次元一甘党決定戦！』が、とうとう開催！この大会では多くの猛者が参加し、料理人やパティシエ達も腕を存分に振るって素晴らしいデザートも盛りだくさん。ただ…

参加表明と参戦者

リーガン

「みなさま、さまざまな世界でよく見られる甘党たちをしっていますか？彼らはよくもまあと言えるような甘いものを食べつつつけています。そんなに好きなら、いつそその一位を決めてしまおうではないか！そう思い立ったのは1ヶ月前。そして、ようやくその思いが実りました。実ってしまいました。なお私は、この大会の作者であり総合司会のリーガンです。皆様、おわかりいただけましたか？」

アロウン（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「どうでもいいし、クレオン並みに長いな・・・」

オガム（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「お気持ちはわかりますが・・・」

リーガン

「そして、ここに・・・」

マオ（ティルズ オブ リバース）

「早く見たいんだからいいかげん始めてよー！」

リーガン

「はいはいわかりました。それではこれより、『次元一甘党決定戦！』の開催を、宣言します！！！」

その瞬間、会場は歓声に包まれた。

シェリア（ティルズ オブ グレイセス）

「歓声に包まれるものなの？」

シェリアがなんか言っただけだが、気のせいだろう。

リーガン

「この大会に先立って、この大会の場所の提供者であるミレイ・アツシュフォード（コードギアス）とスポンサーの八神はやて（リリカルなのはStrikerS）とペイラー榊（ゴッドイーター）にお話を伺いたいと思います。お三方、この大会、どうなりますかね？」

ミレイ

「面白くなると思います！」

ミレイはいつものように元気に答え、

はやて

「それは当たり前や！まあそれより、どんなデザートがでてくるか、楽しみやわ」

ミレイに軽くツツコミを入れたはやては幸せそうな顔を浮かべ、

ペイラー

「私としては、この大会の結果のほうが興味深いね。こんな大会はめったにないしね」

ペイラーはニヤニヤしながら答えた。

リーガン

「さあ、それでは選手をご紹介しましょう！エントリーナンバー1

番！『テイルズ オブ ヴェスペリア』より、ユーリ・ローウェル
！！」

ユーリの名が出てくると同時に、歓声が広がった。主に女子の。

ユーリ

「おいおい、甘いものたくさん食えるって聞いたから来たのに・・・

」

リーガン

「続きまして、エントリーナンバー2番！『テイルズ オブ デス
ティニー』より、リオン・マグナス！！」

またも女子の歓声が広がった。

リオン

「・・・まるで僕たちが甘党だと言ってるみたいだな」

リーガン

「周知の事実です。特に君たちは。エントリーナンバー3番！『リ
リカルなのは』より、リンディ・ハラウン！！」

リンディ

「思った以上にすごいことになってるわね」

ルルーシュ（コードギアス）

「会長がいますからね。次元管理局の設備でも使って大々的に宣伝
したんでしょう」

クロノ（リリカルなのは）

「実際使われた形跡があるけどね」

アーニヤ（コードギアス）

「・・・さすが先天性おまつり女・・・」

リーガン

「エントリーナンバー4番！糖尿病のあんた来てもいいのか！？『銀魂』より、坂田銀時！！」

銀時

「いいに決まってるだろ！こちとらこの日のためにパフェ1ヶ月間我慢してたぞ！おかげで血糖値1で死にそうなんだ！！早く食わせらコラア！！」

リーガン

「血糖値1は嘘でしょ！どんな食事したらそうなるんですか！！？もう！！！！」

ミレイ

「まだ次あるんでしょ？早くなさい」

リーガン

「つと、すみません。えー、続きまして、エントリーナンバー5番！『戦国BASARA』より、真田幸村！！」

幸村

「うおおおおおお！この幸村、かならずや、優勝してみせましょうぞおおおおおお！！！！」

そついいながら幸村は炎を噴出しながらたぎらせる。

はやて

「ちょ、ちょいまち！ここで火い出さんといて！燃えてまう！」

言い忘れてたが、ここはアッシュフォード学園の体育館である。当然木造のため火に弱いのだ。

幸村

「す、すまぬ」

ペイラー

「どうやって火を出しているのか、興味深いねえ。大会が始まる前に・・・」

リーガン

「えー、幸村もようやく納まり、ペイラー博士がなんか怖いこと言い出したので・・・最後の参加者の発表へいきましよう！エントリナンバー6番！『ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地』より、スィール！！」

ティアーズ・トウ・ティアラ組

「ええ！！？」

その名前が出たとき、驚愕の声がティアーズ・トウ・ティアラ組のあたりから聞こえてきた。

アロウン

「なんでエントリーされてるんだ？」

リアンノン（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「スィールさん、甘いものそんなに好きってわけでもないのに!!」
ひとしきりざわついた後、

アルサル（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「そういえば、スィール、入り口のほうでなんか書いてたな」

アルサルがポツリと言った。

ラスティ（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「も、もしかして、それって・・・」

オクタヴィア（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「おそらく参加用紙だな。彼女のことだから、入場の用紙と思って書いてしまったのだろう」

ジノ（コードギアス）

「うっわぁ」

アスベル（ティルズ オブ グレイセス）

「・・・」

新八（銀魂）

「なんか、ドンマイとしか言いようがないんですけど・・・」

そこにいた全員が同情の思いでひとつとなった。

スィール（ティアーズ・トウ・ティアラ 花冠の大地）

「うう・・・やっぱり、私って、不幸です」

参加表明と参戦者（後書き）

なんか、今回あんまり笑い要素なくてごめんなさい。次回はルール説明と最初の料理でも出そうかかと思っています。そこにも入れようかと思っていますので、これからよろしくお願いします。自分が文才がないのと、高度な笑いのため、感想、よろしくお願いします。

ルール説明

ゼロス（ティルズ オブ シンフォニア）

「どーもー！さて、今作者のやるうがスィールちゃんのために奔走してるんで、あいつの席を、おれたち『ビバ ティルズオブ』コンビが乗っ取っちゃいました！そんなわけで、スィールちゃんにリンディさん、こんな大会ほうっておいてさあ、どこかでお茶でも…」

ジェイド（ティルズ オブ ジ アビズ）

「…ゼロス。そんなことすると、作者はともかく、リフィル（ティルズ オブ シンフォニア）やクロノから何されるかわかりませんよ。これからも人気者でありたいんなら、ちゃんと仕事してくださいね」

ゼロス

「へーい。じゃ、作者のアホが帰ってくるまでがんばるか」

ペイラー

「ところでスィール君、君自身は甘いものは好きなのかい？すきだったら、作者の奔走は無意味なものになるけど…」

スィール

「いえ、そんなに。あ、でも、リムリス（ティアーズ・トゥ・ティアラ 花冠の大地）さんのアップルパイは好きです」

ミレイ

「あらあら、肉体派は素直ね」

スィール

「肉体派って…私はオクタヴィアさんみたいに前線で戦ってるわけじゃ…」

ミレイ

「そうじゃなくって」

スィール

「？」

ミレイ

「その胸、かなり大きいんじゃないの。そんな胸して、よく戦ってるみたいだし、とっても揺れるんでしょうねえ」

はやて

「ほんと、揉みごたえありそうや」

そんなことをいいながら、はやてとミレイは親父くさい笑みを浮かべた。

ジェイド

「お二人さん、私より断然若いのにそんなおじさんくさいことは言わないでください」

リヴアル

「おっ。さすがジェイド！たてえ会長が相手でも、止めるときは止め…」

ジェイド

「私もそうしたいじめをしなくなります」

ルーク（テイルズ オブ ジ アビス）
「やろうとするな！！」

ガイ（テイルズ オブ ジ アビス）
「それより、作者はどこ言っただ？」

アーニヤ
「あそこ」

ルルーシュ
「ちよつと待て！一ヶ月前に休みもらったんじゃないのか？何とかならないのか？」

リーガン
「ええ。せつかく人数分あるので。作ってくれた人にもご迷惑がかかりますし……」

ルルーシュ
「ジノたちはどうなんだ？」

リーガン
「他の人たちにも声をおかけしたのですが、てんでだめでして……」

ルルーシュ
「と言うことは、ブリタニア軍全員が来れないってことなのか？」

リーガン
「そうではなくて、一人甘党じゃないのにエントリーしてしまっ
て……」

ルルーシュ

「ふざけるな！」

リーガン

「いや、ふざけてませんよ！こちらも真面目に…」

ルルーシュ

「とにかく、何とか交渉するんだ！と言うかそれ以前に半年間お前ずっと働きっぱなしだったんだろ？」

リーガン

「そうなんですよ！え、ということは…」

ルルーシュ

「そうだ！いつそ反逆しろ！」

リーガン

「ありがとうございます！きっとみんな喜びますよ！」

ルルーシュ

「ん？どうした」

リーガン

「いえ、すぐに来ていただければ問題はありませので…」

ルルーシュ

「…なに？見間違いだった？何だ、そうだったのか」

リーガン

「はい。じゃあ、心よりお待ちしております」

ルルーシュ

「ああ。ナナリー（コードギアス）や生徒会のみんなも来てるから早く来いよ。じゃ」

ピッ

リーガン

「さて、おまたせ…って、どうしました？」

はやて

「すごいシンクロ率やで今の」

リーガン

「？」

ミレイ

「で、交渉の件はどうなったの？」

リーガン

「成功しました！すぐに来てくださるそうです」

スィール

「そうなんですか。よかった」

リーガン

「スィールさん、どうもすみませんでした！！私がもっと調べていれば…」

スィール

「いえ、ちゃんと確かめもせずに書きちゃった私が悪いんです!」

リーガン

「いえ、私が…」

スィール

「いえ、だから私が…」

キキー!!

リーガン

「な、なんだ!?!」

体育館の扉が開くと、とても豪華なリムジンが止まっていた。

ミレイ

「おや、どこかの貴婦人かしら?」

はやて

「だとしたら、わざわざそんな人が来てくださるほど有名ってことやで!」

ゼロス

「それいいねえ!で、俺様に一目ぼれしちゃったりして!」でひゃひゃひゃひゃひゃひゃ!」

注目の中、そのリムジンから出てきたのは…

乳母車に乗ったみすばらしい服装の男性だった。

ゼロス

「ちえ、野郎かよ…」

ユーリ

「それ以前に車と服装のギャップありすぎだろ！いつそどっちかにしろ！！」

銀時

「つーかどこの世界にそんな極端な大富豪がいんだコノヤロー！！」

神楽（銀魂）

「多分、私たちの世界にいっぱいいるアルね」

ラビ（D・Gray・man）

「いるわけないさ！少なくともいい歳して乳母車に乗ってないさ！」

リーガン

「えっと…どちらさまでしょうか？」

男性

「Lです」

リーガン

「え、あ、あなたが！？」

L（DEATH NOTE）

「はい」

リーガン

「そうですか！というわけで、最後の参加者は、『DEATH NOTE』のLさんです！先ほどは失礼いたしました」

L

「いえ、最近糖分不足で思考力が20%落ちていたところだったので、こちらも助かりました」

リーガン

「そうですが、それでは、無事問題も解決したところで、ルール説

明に入ります。みなさまには今から出されるメニュー15品のうち、10品を食べる速さを競ってもらいます」

リンディ

「早食い競争みたいね」

リーガン

「それくらいしか決めませんから。飲み物は飲み物専用のカートにある5品のうち1品を飲み干すことによつて初めて普通の水が開放されます」

幸村

「どんなものがあるのでござるか？」

リーガン

「それは秘密です。というか、メニューも飲み物も1品ずつ箱で隠されていますから」

ユーリ

「めんどくさいな……」

リオン

「それで、そのカートはどこにあるんだ？」

リーガン

「あちらです！どうぞ！」

リーガンが勢いよく手を振った先にある扉から、エステル（テイルズオブヴェスペリア）、マリアン（テイルズオブディステイニー）、エイミィ（リリカルなのは）、桂小太郎（銀魂）、猿飛

佐助（戦国BASARA）、ワタリ（DEATH NOTE）の6人が出てきた。手に持ったカートには15個の箱がある。

そして、それぞれの同じ代表のところへと向かった。

ユリ

「なるほど。デザート渡すやつは知ってるやつのほうがやりやすいってことか」

リーガン

「Exactly・理解が早くて何よりです」

L

「1つ質問いいですか？」

リーガン

「なんででしょうか？」

L

「余ったのはどうするつもりですか？捨てるんですたら蹴り入れますよ」

リーガン

「いえ、ご希望ですたらお持ち帰りできますけど、それ以外はあそこにスタンバイしている大食い組みが片付けてくれます」

シオ（ゴッドイーター）

「ごちそうまだかなー？」

リッド（テイルズ オブ エターニア）
「ぐう」

カイウス（テイルズ オブ ザ テンペスト）
「リッド、寝てると食えないぞ」

エリオ（リリカルなのは Strikers）
「まだ始まってないので大丈夫ですよ」

スバル（リリカルなのは Strikers）
「アイスきつとあるよね」

ギンガ（リリカルなのは Strikers）
「きつとあるわよ」

モルガン（ティアーズ・トゥ・ティアラ 花冠の大地）
「酒があつたらもつといいけどな」

アレン（D・Gray-man）
「お酒は勘弁してください。トラウマが…」

ルフィー（One Piece）
「みんなー！たらふく食うぞー！！」

大食い組み（2名除く）
「おおー！！！！」

エリオ
「だからまだですってー！！」

ユーリ

「あいつらなら余裕で食えるな」

リオン

「ああ…」

アロウン

「モルガンのやつ、いないと思ったらいつのまにあんなところに…」

リーガン

「それでは、みなさま、それぞれ番号を1つずつ選んでください！箱の中身は同じ番号でも人によって違いますし、箱を開けてからは食べつくすまで次には進めませんのでご注意ください！違反したらお仕置きが待っています」

ユーリ

「エステル、3番頼む」

エステル

「はい、ユーリ」

リオン

「マリアン、2番を頼む」

マリアン

「かしこまりました」

リンディ

「7番よろしくね」

エイミィ

「はい」

銀時

「ヅラ、5番頼む」

桂

「ヅラじゃない、桂だ」

幸村

「佐助！1番を頼む！！」

佐助

「了解旦那！」

Ｌ

「13番を」

ワタリ

「はい、ただいま」

リーガン

「みんな、準備できましたか？それでは、スタート！！」

開始の合図とともに、みんなの箱がパートナーによって取られる。

それぞれの選んだものは、以下のとおりだった。

ユーリ↓黄色いパフェ

リオン↓グラール産プリン

リンディ↓生ハムメロン

幸村↓フルーツパフェ

Ｌ↓赤い粉つきショートケーキ

それぞれが喜びの声を漏らしている中、桂はすぐに箱をかぶせた。

桂

「今、ものすごいものを見たような…」

銀時

「ヅラ、こんどはゆっくり上げる。見間違いであってくれよ…」

再びあがった箱の中を確認したとき、

銀時

「甘くねえどころか、ボンレスハムのほうが１００倍よかったー
！！！！」

謎の絶叫を上げた。理由は簡単。選んではいけないものを選んでしまったからだ。

銀時

「最悪だ！甘いえさで俺たち釣っておいて、結局ダークマター置いてやがったよ！でけえウ○コおいてたよコンチクショー！！！！」

銀時↓お妙さんの玉子焼き
ダークマター

桂

「スイーツだけに、ナンスイッツ（ナンセンス）」

銀時

「おい、誰かホームランバット持って来い！今こいつを退場させてやる！！」

ミレイ

「ストップ！！仲間割れはやめなさい！」

リーガン

「というか、何であるんでしょうかねえ？」

はやて

「あんたが作るの認めたからやる！！」

リーガン

「え、だって、ちゃんと甘いらしいですし、ねえ」

妙（銀魂）

「ええそうよ」

近藤（銀魂）

「いやーお妙さんの玉子焼きはいつもおいしいですねえー（もぐもぐ）グハッ」

バタ

リーガン

「えっと…近藤さん？」

ウィーン、ウィーン

近藤

「オマエハ、ダレダ？」

リアンノン

「き、記憶を失っちゃってますー！」

コウタ（ゴッドイーター）

「ぜんぜん大丈夫じゃないじゃん！」

そのあと、観客のほうでひと悶着があったのは、言うまでもない。

ルール説明（後書き）

はやて「お妙さんのあれ、面白いから入れたやろ？」

リーガン「やつちゃったぜ」

ミレイ「いや『やつちゃったぜ』じゃないでしょ！ちょっと！」

ペイラー「で、どうやって銀時君はこのピンチから抜け出すのかな？」

リーガン「それは次回のお楽しみです。また次回をお楽しみに！！」

逆境とお仕置き

スザク（コードギアス）

「おまたせ」

ナナリー

「スザクさん！」

ルルーシュ

「やっと来たか。まあ、上官の手違いなら仕方ないか」

スザク

「そうだね。あ、そうそうジノが面白い話お願いって言ってたよ」

ルルーシュ

「まったく、いつものことだが…まあいいさ。それには事欠かないどころか、今起こってるしな。あんな風に…」

銀時

「くっそー！どうすんだこの妙の玉子焼き。^{ダークマター}食ったら前回のゴリラみたいになっちまうぞ」

ユーリ

「ま、あいつに比べたらこっちは天国だな」

Ｌ

「ええ」

銀時以外はデザートを口の中に入れた。

幸村

「おお！なかなか美味でござるぞ！」

リンディ

「いい甘さね」

リオン

「うまい」

3人がその味に舌鼓を打ってうっている中、口に入れたまま固まった参加者が約2名。

ユーリ

「…おい」

リーガン

「なんででしょう?」

ユーリ

「これ作ったやつ引っ張って来い。一回殺す！」

エステル

「ユ、ユーリ!?!」

リーガン

「ユーリさん、血迷いましたか?」

ユーリ

「血迷った！？それよりも…」

なんで生クリームの代わりにマヨネーズなのか説明しろおおおお
おおおお！！！！」

ユーリは天をも突き破るような大声を上げた。

ユーリ↓マヨネーズパフェ

エステル

「ええええええ！！？」

リーガン

「なんでそんな…はっ！声を出さないってことは、もしかして…さ
んのも…」

L

「いえ、幸いこっちは唐辛子の粉のせいで少し辛いだけです」

L↓唐辛子の粉つきショートケーキ

リーガンはすぐに犯人探しに行ったが、こんな間違いおよびおかし
な料理を作る人間は数えるほどしかいないので、すぐに浮かびあが
った。

リーガン

「…土方（銀魂）！シャマル（リリカルなのは）！どっいうことで
すか！？」

シャマル

「ええ！？イチゴの粉をかけたつもりだったのに！」

土方

「なんだ？俺が作ったのにけち付けるつもりか？」

それぞれが言い分を言った後、ヴィータ（リリカルなのは）がシャ
マルに駆け寄った

ヴィータ

「シャマル、さっきザフィーラ（リリカルなのは）に確認してもらったけど、家にあったビン、イチゴの粉入れたビンだったぞ」

シャマル

「うそ……！！？」

シャマルが信じられないといったげな事を言い出したのを見たリーガンはあきれてしまった。

リーガン

「…シャマルさん、あなたのは被害は軽微のようですので今回は目を瞑ります」

シャマル

「ほっ」

リーガン

「しかし、土方！お前は少し反省しなさい！！」

土方

「はあ！？なんで俺だけなんだ？アホくせえ！俺が作りてえもの作って何が悪い！？」

その瞬間、何かが切れる音がした。

リーガン

「ところであのパフェ、砂糖入ってますか？」

リーガンは質問した。明らかに怒りを押さえ込みながら。

土方

「なんでそんな甘ったるいもん入れなきゃいけないんだよ」

何かの音を発した後、殺人モードと化し、剣を構えたユーリ。それをリーガンが制止した。その背中からはどす黒いオーラが放たれている。

リーガン

「ユーリ。そのパフエ、食わなくていいぞ」

ユーリ

「ほんとか!？」

リーガン

「はい。皆さんもそれが当たったらゴミ箱へ放り投げて結構です」

土方

「おい!ちよつと待て!!」

リーガン

「よくもこの大会の邪魔してくれたな!見せしめにしてやる!」お
仕置きルーレット『召喚!!』

リーガンの掛け声とともに、隣に魔法陣が出現し、そこから黄色の『F』、青色の『B』、赤の『M』、白の『R』、緑の『S』、紫の『E』、そして黒の『T』のルーレットが出現した。ちなみに色は背景で、文字は『T』以外は黒、『T』は白で書かれている。

はやて

「すごいもん作ったな」

リーガン

「ルーレット回転!!」

はやての感嘆を無視してリーガンがまわし、やがて『F』で止まった。

ペイラー

「『F』ってなんだい？」

リーガン

「フェイト（リリカルなのは Strikers）さん、お願いします!!」

そのときを待っていたかのように、土方の後ろに謎の空間が出現し、そこからフェイトが飛び出し、その勢いを生かした華麗なホームランを決めた。まともに喰らった土方は窓を突き破り、断末魔を残しながら空の彼方へと消え去った。

はやて

「って、フェイトちゃん!? なんでおるん!? 確か用事で…」

フェイト

「これがその用事なの」

シャマル

「でも、一体なんで…」

ふとフェイトの服のポケットに目が行くと、写真が入ってた。エリ

オとキャラとなのは（リリカルなのは）とヴィヴィオ（リリカルなのは）の写真が、大量に。

はやて

「シャル、つつこんだらアカン」

シャル

「はい、はやてちゃん」

リーガン

「とまあ、こんな感じで、違反した人にはこんな風にお置きされます。おきをつけを」

しばらく会場を沈黙が支配した。

リーガン

「なお、料理の中に、1つずつはありますが。それを引いても発生しますのでご注意ください」

参加者一同

「とんでもないことするな（しまったね）！！！！」

幸村

「なんと卑劣な！！」

佐助

「旦那！当たるかどうかを気にしないで、さつさと終わらせちまおう！終わらせれば、そんなに気にしないでいいだろ！？」

幸村

「そつでござつたな」

幸村が勢いよく食べ始めるのを見たユーリは、すぐに動いた。

ユーリ

「エステル、4番!」

エステル

「は、はい」

エステルはきびきびと動き、すぐに箱をユーリの前で開けた。

ユーリ↓ショートケーキ

ユーリ

「よし!」

そしてすぐにみんな食べるのを再開させた。一組以外は。

銀時

「全く、作者のやつも妙も一緒にお仕置きしろよな。まったく、どうするか…」

桂

「銀時、いい考えがある」

銀時は、信用していない目で桂を見た。

銀時

「なんだ?」

桂

「世界のどこかには、辛いものを食べる速さを競う大会があるという。そこに、それより辛いものを食べて大会で食べるものの辛さを緩和するという作戦があるらしい。その作戦の不味いもの版『不味さ先取り作戦』だ!!」

銀時

「用はこれより不味いもん食えってか？ふざけんな!!これ以上不味いもんどこにあるんだってかそれ以前にどうやって調達すんだツラア!!!」

桂

「ツラじゃない桂だ！作者のことだ、どうせ受け狙いで飲み物の中にもはずれを入れてるに違いない!!」

リーガン

「ギク！」

銀時

「いまどき『ギク』はねえだろ!!とにかく飲み物早く持ってきやがれ!!」

桂

「ここにある。早く選べ！デザート1品に付き1つしかだめらしいが」

銀時

「2番だ!!」

桂はすぐさま2番を持ってきて、箱を開けた。

銀時↓^{ダークマター}妙さんの玉子焼き + A K U M A の^{オイル}血液

銀時

「飲み物ですらねえじゃねえか――――！！！！！！」

銀時の罵倒が^{そら}宇宙をも超えた。

なお、悲しいことにほかの参加者は2品目に移っていたという。

逆境とお仕置き（後書き）

ミレイ「なんか、銀時さんだけひどい目にあってない？」

リーガン「こういつつらい目の後にいいことが起こるんですよ」

はやて「わからんでえ〜。こういう作者やから」

ペイラー「しばらくはこれが続くみたいだね」

リーガン「まあ、そうですね。それでは、次回をお楽しみに!!」

A K U M Aの血液にウイルスは混入^{はいつ}してません。

中盤の力オス？（前書き）

リーガン「今まで、ちょっと笑える要素が少なかったと感じました。よって、いろいろと他のをみたりして、遅くなりました。また今回はちょっと文体を変えてみました。それでもよろしければ、どうぞ」

中盤の力オス？

毛利（戦国BASARA）

「読者の駒どもよ。大会も中盤となった」

はやて

「ちょいまち」

毛利

「なんだ狸」

はやて

「狸言うな！てかなんであんたが総合司会のとこにおんねん！！」

毛利

「作り手が忙しいため、我を代理としてよこしてきた。ただそれだけのこと」

ミレイ

「あなたがただでやってくれるとは思えないわね。報酬は何？」

毛利

「2万の捨て駒。もちろん使える物だ」

ペイラー

「人を『物』と言っている時点で、こちらのオオグルマ君と同じにおいがするよ」

毛利

「ふん。では現在の…」

ロード(D・Gray-man)

「そのまえに質問。なんで伯爵やスキン(D・Gray-man)を呼ばなかったの？」

毛利

「邪魔するでない！作者曰く、スキンは単に来なかったからだそう
だ」

千年伯爵(D・Gray-man：以下伯爵)

「私は断念しました。早食いは紳士的ではありませんからね」

玉城(コードギアス)

「でもそのアホくさい兜のやつが司会つてのもなあ…」

毛利

「誰か、そやつの椅子を取れ！」

玉城

「？え！？なにその笑点みたいなルール！！？」

(数分後)

玉城

「で、これは一体…」

善戦空しく、敗北した玉城の席の跡には緑色の丸い壁が残されてい

た。

毛利

「もう一度粗相を試してみよ。私の壁にはさまれ死ぬこととなるぞ」

ミレイ

「いわゆる、『壁サンド』ですね」

毛利

「……貴様も食らいたいようだな？」

ミレイ

「いえ、結構です」

毛利

「では現在の場を説明させてもらう。今は1つを除いてすべて順調に5品目に駒を進めておる」

はやて

「今現在、リオン、幸村、し、ユーリ、銀時の順で5品目に入り、あ、今リンディさんも5品目に入ったで」

ペイラー

「あれ、4品目なのって、リンディ君かい？てつきり銀時君かと……」

銀時

「悪かったな、最下位じゃなくてよお」

はやて

「提督も女性やからな。そんなに早く食べれへんから」

毛利

「大食い組みの奴らはどうなのだ？」

ミレイ

「おおっと、ここでリオン選手が食べ終わったー！」

毛利

「無視するでない！」

リオン

「マリアン、9番を頼む」

マリアン

「かしこまりました」

マリアンがいつもそうしているかのように9番の箱をリオンの前に持ってきた。

リオン

「ありがとう」

リオンはすぐに箱を持ち上げた。リンディもそれに続く。

リオン↓餡蜜

リンディ↓フェンリルのレーション（プリン味）

コウタ

「うわっ、あのレーションじゃん」

リンディが当てたレーションを見て、コウタがいやそうな顔をする。

リアンノン

「食べたことあるのですか？」

コウタ

「あるけど…あのザラツとした砂糖の甘さ、耐えられないんだよね」

アルサル

「大丈夫なのか？そんなもの食べて？」

アロウン

「だいじょうぶだろ。少なくとも近藤（コウタ）のように医療班の厄介にはな」

アルサル

「今、近藤って書いてゴリラって呼んだろ？」

アロウン

「その女（お妙さんを指差し）がそういったんだ。別にいいだろ？」

新八（銀魂）

「そういえば、一時期本当にゴリラっぽくなっていたような……」

神楽（銀魂）

「気のせいアルネ」

ペイラー

「おや、幸村君はもう食べ終わったみたいだね」

観客が一斉に見ると、確かに幸村の皿の上からは餡蜜が消えていた。

幸村

「佐助、10番を！」

佐助

「あいよ！」

佐助が持ってきた箱を開けると、そこには、なにやらようかんに黒いものをかけたものが。

恐る恐る一口。お味は…

幸村

「ようかんに…チョコでござるか」

幸村↓ようかんチョコソースがけ

幸村

「妙な味付けでござるな…」

そんなことをつぶやきながら、また一口入れようとフォークを差し込んだ。

デデーーーン

幸村

「な、なんでござるか!？」

天の声（リーガンの声）

「幸村、OUT!」

ビュティ（ボボボーボ・ボーボボ）

「まさかのガキつか!!?」

幸村が驚き、差し込んだ部分を見ると、『絶対に笑ってはいけないシリーズ』に使われているスイッチが隠されていた。

毛利

「『お仕置きルーレット』を起動させよ!」

その掛け声と同時に毛利の兵士たちが…

毛利

「兵ではない、捨て駒だ!」

ペイラー

「…できれば地の文につっこまないでほしいんだけど」

ルーレットを回し、『S』で止まった。

佐助

「やばいぜ、旦那」

幸村

「規則ならいたしかたない。受けてたつでござる!」

そして、一人の人間が現れた。

ロイド（コードギアス）

「げっ！！」

それは…

ルルーシュ

「！！！？」

スザク

「なんで？」

セシル・クルーミー（コードギアス）だった。

セシル

「それ、私の自信作だったんですけど…」

幸村

「え…そ、そうで…」

セシルはにっこりと笑っていた。怖いぐらい、にっこりと。

セシル

「食らいなさい！セシルパンチ！」

幸村

「つく、まだ政宗殿のほうが…」

セシル

「まだよ！セシルチョップ！」

幸村

「ぬう、まだ親方様に劣る！」

セシル

「セシルキックー！」

カキンー！！（擬音）

幸村

「！ー！」

はやて

「おおとー！ここでまさかの玉蹴りー！！効果は抜群やー！！！」

男全員

「ううううー！！」（股を押さえて悶絶）

幸村

「うう…この幸村、倒れること、なああああしいい！！！」

ミレイ

「な、なんと、幸村選手、あの玉蹴りから見事に立ち上がったー！！！」

セシル

「止め！セシルビームー！！！」

ビームが幸村に命中し、爆発した。

幸村

「おやかたさばあああああ！！！」

ミレイ

「あのせりふってことは死んだわね」

佐助

「みんな、ビーム出してることにっこもつ。そうしよう」

佐助が冷や汗を出しながらそう言っていると、爆煙が晴れてきた。

ミレイ

「って、やられてると思ったらすっかり受け止めてるし！」

幸村

「うおおおお！やりましたぞ、親方……」

????

「バカ者が！！！」

幸村

「うがあああああああ！！？」

槍を振り上げ、勝ち誇っていると、突然何者かに殴られ、盛大に吹き飛ばす幸村。立ち上がった彼が見たもの、それは……

幸村

「お、おお…おお、おや、おやおやおやおや、親方様あああああー!?なぜここにいいいい!!?」

療養中の武田信玄だった。もちろん戦国BASARAのだ。

信玄

「いかにもこのわしよ。病なぞ、吹き飛ばしたわ!!」

ミレイ

「さすがマグマに入っても平気な男」

キール（テイルズ オブ エターニア）

「いや、それはさすがに…」

ルルーシュ

「あそこは一種の何でもあり空間だ。考えるだけ無駄だ」

信玄

「幸村よ。このような形といえど、戦は戦。駆けよ幸村!思い煩うことなど、なにもなし!!虎の翼を見せてみよ!!!」

幸村

「承知いたしました!親方さまああ!!」

<熱血殴り愛中>

毛利

「やはり理想の捨て駒。速さがわれの予想を超えたか」

幸村が殴り愛を終えると同時に、ものすごい速さで食べ始めた。

佐助

「旦那、のどにつまらせないでね」

ペイラー

「ん？」

突如、毛利の前に、宗麟（戦国BASARA）と、謎の扉が出現した。

毛利

「……その扉を開けてはならぬ……！」

毛利の叫びむなく、扉は開かれ、光が毛利を包み込んだ。

ミレイ

「毛利さん……？」

サンデー毛利

「われはサンデー毛利！愛の日輪よ……！」

玉城

「もつと変になりやがった……！」

サンデー毛利

「この血に……！」

ミレイの「字が間違ってます……！」というつつこみを無視し、サン

デー毛利は壁サンドを発動させる。

玉城（99999Hit BASARA!!）

「ちょ、ま、お、俺、って…こんな役回りか？」

ミレイ

「玉城さん、哀れ」

サンデー毛利

「またつまらぬ物を切ってしまった。さあ、われはミサを受けゆくので、これにて！」

はやて

「あ、ちょいまち…って、行きよったわ」

ペイラー

「全く、どうすんだろうね、司会」

中盤のカオス？（後書き）

リーガン「やりすぎたかな？」

ペイラー「どうか？」

ミレイ「ところで、毛利さんへ罰はあるんですか？」

リーガン「もちろん。次回罰してやります」

はやて「次回もよろしゅうな」

終盤（前書き）

リーガン「最近いろいろ忙しかったのですが、やっと投稿できました。もう少しで終わりなので、それまでこの面白いかどうかわからない小説に付き合ってください」

終盤

アルサル

「というわけで、前回司会から離脱してしまった毛利に変わって」

ルルーシュ

「俺とアルサルが代わりの司会を務めさせてもらっ」

はやて

「ちょいまち」

アルサル

「今度は何だ？」

はやて

「そうなった理由読者がわからへんから説明せんかい！」

ルルーシュ

「つまり、司会業を務めたことがある俺とアルサルが代理司会として作者から任命されたということだ」

ミレイ

「務めたことあったっけ？」

アルサル・ルルーシュ

「「中の人」が（キツパリ）」

ペイラー

「それいいの？」

ルルーシュ

「条件はすべてクリアされた。問題ない」

アルサル

「よし、早速再開するぞ！」

スザク

「ねえルルーシュ、ジノどこに行ったか知らない？さっきコーネリア（コードギアス）様から連絡が…」

ルルーシュ

「さあな？どこかで何かに夢中になってるんじゃないか？」

ミレイ

「それにしても、なかなか面白くなってきましたよ」

幸村（九品目 ショートケーキ：終了）

「うおおおおお！！」

Ｌ（八品目 グラールプリン：終了）

「…」

佐助

「旦那、次なんにする？」

ワタリ

「竜崎、次は？」

幸村・L

「次、10番を頼む(3番を)」

佐助・ワタリ

「わかった(かしこまりました)」

ユーリ(七品目のダークマターに敗北中)
「…」

エステル

「ユーリ！しっかりしてください！ユーリ！！」

リオン(七品目 唐辛子の粉つきショートケーキ)

「…なんて威力だ」

リンディ(六品目 フルーツパフェ)

「ほんと…坂田さんはよく無事だったわね」

銀時(七品目 フェンリルのレーション)

「ああ。銀ちゃんはなんだかんだでよく食ってっからよ、耐性ついてんだわ」

ルルーシュ

「ほお、あの二人はいいペースだな」

ミレイ

「そうね。このまま…」

このまま行くのは神が許さなかった。

リンディ ↓ 妙さんの玉子焼き（ダークマター）

幸村 ↓ 妙さんの玉子焼き（ダークマター）

はやて

「二人とも近藤さんを記憶喪失にさせ、ユーリを戦闘不能にさせたあれを当てたで」

ミレイ

「うまくいくわけないわね」

アルサル

「うまくいかなさすぎだろ！なんでここで3・4人目の犠牲者が決定するんだよ！！」

ルルーシュ

「…（作者め！あんなイレギュラーをあんなタイミングで！）」

ミレイ

「とうとう作者のノリの次の犠牲者が…」

幸村

「うおおおおお!!」

佐助

「ちょ、旦那!?なに危険物をかきこんでんの?」

幸村

「親方様が見ておられる!このようところで、立ち止まるわけには行かぬ!!」

佐助

「旦那、気持ちはわかるけど、それは…」

幸村

「がはあああつつつ!!」

はやて

「ゆ、幸村さんが、血を吐いたああ!!」

リンディ

「あらあら大変ね」

銀時

「よし、ここで銀ちゃんが追い抜いて…」

カチッ

桂

「地獄の釜に直行だな、銀時」

銀時

「やっぱりありやがったよコンチクショーー！！！！」

と、そこでモニターが出現、映し出されたのは…

観客

「おまえらなにやってんだー！！」

圭一（ひぐらしが鳴くところに）・バツツ（ディンディア・ファイナルファンタジー DFF）・ジノによる、
『Overload』だった。しかもかなりノリがいい。途中で女

装したクラウド（DFF）やエリオ？やリヴァル（コードギアス）
がいたのはたぶん気のせいだ。

スザク

「ほんとに夢中になってる……」

はやて

「作者さん、また変なことを……」

ジタン(DFE)

「なにしてんだよバツツ」

アルサル

「俺、帰って寝ていいかな？」

ミレー

「寝てもいいけど、職務怠慢でお仕置きされるわよ」

政宗（戦国BASARA）

「Yaaaaaaahaaaaaaa
aaaaaa!! 幸村、おまえこんとこでpartyを」

幸村（復活）

「破廉恥なああああ」

政宗

What!!!?

佐助

「あ、竜のだんな、気にしないで」

そんなこんなで、最初の口上。

圭一

「毒だ！毒毒毒！毒毒毒毒毒！！（ほぼ同じなので中略）銀時のあの腑抜けっぷりを見よ！あれこそ毒に汚染された結果である！！そしてザビー教信者は間違った愛の巣窟である！！あれは愛などではなく妄信だ！！双方とも、あのように毒に汚染されてしまったからには、すぐに対処しなければいけないのである！！」

バツ

「というわけで、お仕置き決行！！」

ジノ

「さあ、すぐに実行するのだ！！」

そこからどんどん役目を終えたようにフェードアウトしていった。

デデーーン！！

天の声（圭一の声）

「銀時、ザビー軍、OUT！！」

桂（裏声）

「足引っ張ってんじゃないわよ！！」

銀時

「うつせーんだよ！！こつちがどんだけやばい状況下わかってんのかぁ！！?」

はやて

「お仕置きルーレット回転!!」

ルーレット回転中

ペイラー

「今回は『R』だね」

ペイラーの言葉の直後、銀時の下にスキマが開き、飲み込まれた。

桂

「な！？銀時はどこに?」

はやて

「モニターに…あれ？真っ黒や」

ミレイ

「あれー？故障?」

ミレイが手元の小型モニターをつつくと、音声がつながった。

銀時

『おいテメエ！！何でこんなとこにいやがんだよ！？』

土方

『知るかなもん！！気がついたらこんな真っ暗なとこにいただけだ！お前が後から来たんだからお前が出てけよ』

ミレイ

「おおっと、なんだかすごい展開に…」

アルサル

「それ以前に何で土方がいるんだ？あいつさっき飛ばされたる？」

九兵衛（銀魂）

『それ以前になんで俺がこんなところにいるのか説明してくれないか？』

銀時

『さあな。こんな暗えとこ飛ばされてっからお前ら意外に何も出てねえし、腹下したんなら下したで欠席届でも…』

と、そこでカッーン、カッーンと、何かが近づく音がした。三人はそれを見たのか、恐れおののいた。

銀時

『なんで…RED PYRAMID THINGが？たしかにこんな暗いけど…』

ボウツと炎が燃える音がした。

土方

『何で槍に炎纏わせてんだよ！！本編まったく関係なくなってるじゃねえか！！おい、天パ！早く特攻して死にやがれ！！』

銀時

『ふざけんなマヨラー！お前こそそのよく点火しそうな腹に火いつ

けて爆死しやがれ!!」

東城歩（銀魂）

「若！今警察の弱みを握りました！！これで戦力が下がります！作戦成功ですね！」

土方

「俺に知られた時点で失敗に決まってるだろ!!」

九兵衛

「そもそもそんな作戦立てた覚えはない!!」

東城歩

「がっはあ!!」

音からして、思いつき蹴り飛ばされたらしい。哀れ。

近藤

「トシ！今のばっちり撮ったぞ！現行犯逮捕だ！」

はやて

「近藤さんワープしとる!!」

近藤

「これで柳生家の権力は地に落ちる!!ついでにお妙さんももらいうけ…」

妙・九兵衛

「この変態ゴリラ!!」

今度は近藤さんが飛ばされたい。スピーカーから壁が壊れる音がした。

ペイラー

「妙くんまでワープしたか。実に興味深い」

あやめ（銀魂）

『銀ちゃん！今止めてあげるわ！RED PYRAMID THINGとの男同士の青しゅ…』

RED PYRAMID THING・銀時

『君のは（お前のは）まったくの勘違いだ（ろづが）』

やはり壁が破壊される音が……って、

ルルーシュ

「RED PYRAMID THINGが…しゃべった？」

銀時

『お前！セリフねえキャラなのにしゃべってんじゃねえよ！』

RED PYRAMID THING？

「それは違うぞ！私の姿を見ればわかる」

そこで少し間が空く。

土方

『おまえは、口…』

電流の走る音から遅れて何かが爆発した。

ミレイ

「えっと……しばらくしたら戻ってくるみたいだから、会場のほうに戻しましょう」

ルルーシュ

「どうだな。ん？はやて。なぜルーレットを……」

はやて

「ザビー軍の」

ルルーシュ

「ああ」

ミレイ

「また『S』ね。ということは……」

???

「残念ながらセシル・クルーミーではない」

ルルーシュ

「誰だ!？」

ルチアーノ

「僕たち、『新世界同盟』が」

ブラシド

「やつらに絶望を」

ホセ

「あたえてやるっ」

はやて

「でた！遊戯王5D・sのネタチーム！」

ブラシド

「まずお前に絶望を与えてやる！」

ホセ

「ブラシド！ザビーに絶望を与えるのが先だ！」

ブラシド

「……フン！」

ミレイ

「で、どうやっていくんですか？結構な距離ありますけど？」

ホセが鼻で笑うと、それに答えるかのように、体育館の出口に向かって走り出した。そのまま駐車場にある車に乗り込むのだろう。

…と思つたら、そのまま校門の外まで走り抜けていった。

ミレイ

「もしかして、走つて？」

十代（遊戯王GX）

「まさか、ランニングデュエルか！？」

そんな二人の安易な予想を裏拳どころか、グラウンド・スローター・キャノンで消し去るが如く、駐車場の方向から現れたそれぞれのDホイール（デュエル・ボード）と高速で併走した。

ホセ

「はっはっはっはっは！ザビーよ！覚悟するがいい！ここからが前らザビー教の絶望の時！我らの力を思い知るがいい！！」

そのまま飛び上がり、下半身を変形させ、ドッキングした。（もちろんルチアーノも鳥を思わせる変形・合体をした）

遊戯王5D・s組以外全員

「合体したあゝゝ!!!!!!?」

ルルーシュ

「確かあいつら…カードゲームアニメ出身だよな」

遊星

「あれがあいつらの真の姿だ」

ルルーシュ

「真の姿…」

ミレイ

「もはや大会関係なくなりそうな感じがしてきた」

はやて

「っは!そういえば大会は!!!?」

ペイラー

「みんなさっきからそれどころじゃなくなってるよ。いろいろありすぎて」

ユーリ（復活）

「ん?なんでみんな入り口のほう見てんだ?」

アル（鋼の錬金術師）

「嵐が二連続で通り過ぎたんだよ」

ユーリ

「?」

リオン

「マリアン、次を頼む」

ミレイ

「いつの間に完食してたの!!?」

Ｌ

「私ですよ」

はやて

「あなたも!!?あの殺人料理ですよ!!?」

Ｌ

「思考を停止させました。おかげで思考力が40%減です」

ペイラー

「そついう荒業できたんだね」

そのころリンディは飲み物を選んでいた。

リンディ（１番）

「変なのあつたらお仕置きね」

エイミィ

「さすがにそんなに変なのは入ってないと思いますよ」

リンディ

「それもそつね」

リンディ↓ピンクの飲み物

リンディ

「何かしら？」

リオン

「飲み物のようだが？」

そっとリンディが一口。

支えがなくなった棒のようにゆっくり倒れた。

エイミィ

「艦長！！？」

クロノ

「おいペイラー！！あの毒薬は何だ！！？」

ペイラー

「毒薬とは失礼な！あれは私の傑作『初恋ジュース』だよ！」

ミレイ

「でもあれを見ちゃうと…ねえ」

レン（ゴツドイーター）

「そうですか？僕いつも飲んでますけど、大丈夫ですよ。ほらフレンさんも…」

フレン（TOV）（普通に飲んでいる）

「うん！このジュースおいしいね！」

ユーリ

「あいつも味覚オンチなのか…」

エリオ

「あいつもってことは、フレンさんですか」

クロノ

「…ちよつと僕がお仕置きしてくる」

ペイラー

「え、ちよつと、何をする気だい？」

ペイラー・榊がログアウトしました

アルサル

「まったく。あれ？コウタは？」

アロウン

「さっきソーマってやつが裏に連れてったぞ」

アルサル

「…そうか。ん？どうした？」

ミレイ

「えっと…さきほどリオンさんがすごいもの引きましたね」

はやて

「そやな」

ルルーシュ

「いや、それより…」

リオン↓マッスル型チョコ（8m）

ルルーシュ

「どうやってあの箱の中に入れたんだ？どうしても質量保存の法則を無視しているようにしか見えないのだが…」

当の本人はその大きさに顔をしかめている。まだ八品目でボスを当ててしまったからだろう。

ミレイ

「…もはや突っ込む気も失せそう。そう思いませんかしさ…」

L↓13mのウェディングケーキ

新八

「ちよつと！まだあんなの入ってたの！？いったいいくつ入れてるのあの作者！！？」

ルルーシュ

「わからないが、おふざけにちがいないだろう」

神楽

「どーでもいいアル。さつさと食って終わるがよろし。あとその鉄板はそのまま死ぬがいいアルね」

政宗

「おい、そのChina。鉄板つつうのは真田幸村のことか？」

神楽

「それしかないアル」

政宗

「小娘、あいつは炎だ。この会場や俺のような鉄板を暖めることができるのはあいつだけなんだよ！それをそんなriflingな意味で使うんじゃない！You see？」

神楽

「わからんアル。おいダメガネ、このまるでだめな英語使うオッサン、略してマダオはなに言ってるアルか？」

新八

「誰がダメガネ…って神楽ちゃん、それは…」

新八が政宗を見ると、背後に青き炎を纏う竜が見えた。ほかの観客が抑えようとするが、間に合わなかった。

政宗

「俺をマダオ呼ばわりたあいい度胸だ！！Go offer a
prayer（祈りを済ませて来い）！！HELL END DR
AGON！！！」

政宗と神楽の壮絶な一騎打ちの最中、幸村と銀時を含む参加者たちは黙々と食べ続け、ついに、

「ごちそうさま！！」

すべてを食べ終えるものが出た。

終盤（後書き）

リーガン「とうとう完食する者が出たこの大会。完食したのはいったい誰なのか？」

はやて「作者は戻ってくるのか？」

ミレイ「ルーレットの残りは何なのか？」

アルサル「ペイラーは無事なのか？」

ルルーシュ「大会の優勝商品とは？」

ペイラー「次回、『表彰式』。さて、研究対象は見つかるかな？」

ミレイ「ところで本当にいつくるの？」

リーガン「さあ？もしかしたら来ないかも」

（袋叩き中）

リーガン「はい、はじめに来るよう努力しますので、次回もよろしくお願いいたします」

閉会式（前書き）

そのころのザビー軍団

ブラシド

「やれ！機皇帝ワイゼル！ザビーにダイレクトアタック！！」

ザビー

「おおおおおお！！！！」

何も打つ手がなくなったザビーに機皇帝ワイゼル∞（インフィニティ）が突撃し、勝負が決まった。

ザビー

「やはり、あなたは……」

ブラシド

「なんだ？」

ザビー

「洗礼名を『真つ二つブラシド』ではなく、『パシリド』にしてほしいの……ですね」

ブラシド

「違う！！」

ルチアーノ

「ついかどうちも英語じゃねえし。ホセでさえ『ランニングホセ』だったのに」

ブラシド

「ルチアーノ……」

宗麟

「だまってなさい『ファニールチアーノ』（ファニー（funny）
とはおかしい、普通ではないという意味）」

このあと、機皇帝スキエルのダイレクトアタックが決まったのは、
言うまでもない。

閉会式

クレオン

「はいはい、みな様、ご声援ありがとうございます。繰り返させていただきますが、この第一回次元一甘党決定戦閉会式にお集まりいただき、真にありがとうございます。私、今大会の閉会式の宣言を担当させていただきます、元神聖帝国直轄統治都市ロンドンイニウモム元市長クレオン、クレオンと申します。いいですか？クレオン！クレオンですよー！！」

アロウン

「とうとうクレオン本人まで出てきやがったか」

新八

「もうかれこれ30分ですよ。リーガンさんの5倍以上ですよ。いつまでやるつもりですかあの市長？」

アルサル

「元、な」

クレオン

「さて、今大会につきまして、あまりにも作者が遅いので、代わりに私が…」

リーガン（クレオンの真下からアップ）

「勝手に仕切るなあああああ！！オオオオオルハアアイル、ブリタニアアッパアアアアアアア！！」

新八

「あ、出てきた」

神楽

「なにげにアッパーしてるアルな」

ユーリ

「アッパーの意味あんのか？」

リーガン

「クレオンの退場のためです。ほんとに某TOWの主人公の…えつと、12月と同じ名前の称号を持つ人みたいに上から来てもよかったですけどね」

ジェイド

「…作者、それはDecemberです」

リーガン

「あ、えーつと、そ、そう…あ、思い出した！マオの術式の…」

マオ

「それは『ディザスター・ロアー』」

リーガン

「えつと…たしか、そう！龍亜（遊戯王5D・s）の…」

龍亜

「『D
』
デIFOォーマー」

リーガン

「エ、エド・フェニックス&D・D・（遊戯王GX）の」

エド（GX）

「『D・HERO』！」

ジエイド

「…いつまでこんなどこかで見た馬鹿な発言するんですか？ 帰りますよ？」

リンドウ（ゴッドイーター）

「で、結局のところ今までどこ行ってたんだ？」

リーガン

「ちよつと商品回収のために、ラクーンシティとか、ウィラメツテとかフォーチュン・シティに行っていました」

ユーリ

「たしか全部ゾンビ出てくるよな。大丈夫なのか？」

リーガン

「あ、そこは大丈夫です。必要なものも回収できたし、後は賞品を造って（ピピピ）…っと、時間か」

新八

「時間って、なんのですか？」

リーガン

「ゾンブレックス」

説明しよう。ゾンブレックスとは、DEAD RISINGシリーズに出てくる、ゾンビ感染した人の感染進行を抑制するために開発

された新薬のことである。

新八

「やつば噛まれてんじゃねえか！！どこが大丈夫だよ！！完璧に死と隣りあわせになってんじゃねえか！！！」

リーガン

「心配すんなって。人間って者は、気合で制約を跳ね飛ばしたり、不可能を可能にしたりする生き物なんだから」

マダオ

「ゾンビ化の阻止は無理だったよね？ってかなんで俺だけ名前じゃないの！？」

リーガン

「まあ細かいことは気にせずにと（注射完了）。と、いうわけで、結果発表！！！」

パッパラパー！！（ファンファーレ）

リーガン

「説明が面倒なので、一気に5位から2位まで発表します！」

遊星

「おい、ちゃんと発表しろよ」

リーガン

「それをお前が言うのか？警察に尋問にあっているときにデュエル

を申し込んだお前が」

マオ（TOR）

「だーからー、早くしてよー。ユージーンの目を盗んできたのにばれちゃうじゃん」

リーガン

「もうばれてると思いま…マオ、後ろ…！」

マオ（TOR、コードギアス共に）

「「え？」」

振り向いた二人の先には、ダンボールが。

リーガン

「とりあえず、剥げ…！」

マオ（ギアス）

「はいはい」

マオ（TOR）

「いつの間にあっただろ？えい！」

ガコツ（剥ぎ取り音）

スネーク

「なんだ？食事中だ！」

リーガン

「そんなところで食うな」

マオ（TOR）

「えっと、アッチのボク、思いっきり撃たれたヨ？だいじょうぶな
ノ？」

リーガン

「医療班、回収！」

収拾がつかなくなりそうなので、発表します。

5位 リンディ・ハラオウン

4位 L

3位 ユーリ・ローウェル

2位 リオン・マグナス

リーガン

「そして、一位は……」

リーガン

「真田ア！幸村ア！！」

幸村

「うおおおおおおお！やりました！やりましたぞ親方様ああ！」

信玄

「ふんんんん！！」

突然殴る信玄。

幸村

「なっとうつがは！ててて・・・」

信玄

「馬鹿者が！！これは真の戦ではない。真の戦では勝利の油断が死を招く。此度の戦もまた叱り。幸村よ、決して浮かれるでないぞ！」

幸村

「承知いたしました、親方様あ！」

信玄

「幸村」

幸村

「親方様」

信玄

「幸村」

幸村

「親方様」

信玄

「幸村あ！」

幸村

「親方様あ！」

佐助

「あーあ、始めちゃったよ。じゃ、商品、代わりに俺がもらっていい？」

リーガン

「かまいませんよ。はい、優勝商品の、甘いもの詰め合わせと、副賞のDホイールです」

ユーリ

「どこをどう組み合わせたらそんなのができんだよ！！」

遊星

「俺は何度か造ったんだが、そんなに難しいことなのか？」

アル

「ボクらの錬金術でも難しいと思うよ」

新八

「つーかデッドラにもバイオにもねーよそんなハイテク機械！組み合わせにもほどがあるだろ！！」

リーガン（華麗にスルー）

「さて、最下位はもちろん…坂田銀時です！」

銀時

「おい！馬鹿作者！！」

リーガン

「なんですか？最下位になったのは自分のせいでしょう？」

銀時

「なにが自分のせいだ！！最後の最後で見た目普通のおかしなもん食わせやがって！こっちは走馬灯見えちまったんだぞ！何であんなもん入れた！！？」

リーガン

「おもしろいじゃん。おまえも他人が当たったらあざ笑うだろ？」

銀時

「即死攻撃で笑えるか！！何でマヨラーのときはあんだけやったのに今回何にもしねえの！！？」

リーガン

「というわけで、銀時、桂、二人には罰ゲームを受けてもらうことになるんだけど、デスゲームとデスコース、どっちがいい？（異様なほどに明るい笑顔）」

銀時

「なにすつげえいい顔してグロいこといってんだ！！？なに！！？ソブレックスに狂化剤でも混入^{いれ}てたの！！？」

リーガン

「いいえ、ケファイアです」

銀時

「口から注入してもらえ！つーかなんでそんなもんいれて無事なんだよ！？おまえはアラガミか！！」

リーガン

「いいえ、ゲリヨスです」

銀時

「とつとこ走ってこい！！」

リーガン

「まあ、からかうのはここまでにして、結局どっちがいいんですか？」

銀時

「どっちも選べるか！俺はロッククライマーじゃないんだぞ！」

桂

「では苦しくなさそうなデスコースで」

銀時

「おめえも普通に選ぶなあツラア！！！」

桂

「ツラではない、リッドだ！あ、間違えた、桂だ」

リーガン

「ではまず、デスゲーム始動！」

銀時

「お、おい…いきる、なにする気だ？」

リーガン

「このデスゲームの内容は…」

ズバリ、お仕置き5連発ですー！！」

ユーリ

「お前もこりねえな」

リーガン

「まだ出していないのが残ってますから。では、まず一回目、ドロー！！」

ユーリ

「ドローって何だよ？」

遊星

（5階の連続攻撃にリーガンの腕についているデュエルディスク…まさかシューティング・スター・ドラゴンを意識して？）

リーガン

「お仕置きアルファベット『T』！」

銀時

「初めてきたな…『T』って…」

いきなり銀時の上から大量の小豆あずきが振り出し、数分後には銀時がいた場所に小豆の山ができた。

リーガン

「『T』はつぶあんです!」

銀時

「どこがつぶあんだ!」

リーガン

「人を『つぶす』所がです!」

銀時

「おいそのしてやたりって顔やめろ!うまくないから!面白くないから!」

????

「あはははは。僕の出番だね」

リーガン

「え?」

突然証明が落ちると同時に一人の男が笑いながら真紅眼の黒竜レッドアイズ・ブラックドラゴンに乗って現れた。

ファンクラブ

「『キヤー!』ブッキー!ああ!」

リーガン

「ブッキー？」

男はさっそうと床へと降り立ち、真上のスポットライト（いつ用意したかは不明）を指差した。

????

「今ボクが指差しているのは？」

ユーリ

「スポットライトだろ」

新八

「天井ですね」

マオ（TOR）

「おっ空〜！」

ルルーシュ

「おそらく上空に停泊している時空船アースラだろう」

アロウン

「違うな。あいつが指してるのは「SPAAAAAAAAAAAAA
CEー！」……なんか、変なの聞こえたぞ」

ジェイド

「馬鹿が直らない人が行き着く先です」

ルーク

「えー！？じゃあ俺あのままだったら死んでたってこと！？」

「???

「いや、君たちについてないんだけど…」

ファン3人

「「「天!」」」

「???

「ん」JOIN!!」

ファンクラブ

「「「キャ〜!!」」」

というわけで、天上院吹雪（遊戯王GX）突然の登場。今回も自重してないようだ。

リーガン

「吹雪さん、あなたは3回目の『F』の担当でしょ?ちゃんと順番は守ってくださいよ」

天上院吹雪

「なに、僕はみんなのためならルールを超越できるのさ」

リーガン

「はあ…もういいや。二丁五回目、ドロー」

ソーマ

「おい、テメエ!仕事しろ!」

リーガン

「お仕置きアルファベット『M』『R』『B』『E』です。という

わけで、『R』担当のヘルカイザー亮こと、丸藤亮（遊戯王GX）、おねがいします」

ヘルカイザー

「ふん、まあいい。俺のターン！」

中略

ヘルカイザー

「『オーバード・フュージョン』発動！場と墓地の8体の機械族を除外し、『キメラテック・オーバー・ドラゴン』を特殊召喚！『キメラテック・オーバー・ドラゴン』の攻撃力は、融合素材モンスターの数×800となる。よって……」

キメラテック・オーバー・ドラゴン

攻撃力 800×8＝6400

天上院吹雪（マイク付 いったいどこから……）

「『褐色のウオリアー』召喚！さらにフィールド魔法『究極のステージ衣装』と永続魔法『スポットライト』を発動！さらに『光の護封壁』でライフを3000ポイント払った後、『巨大化』を発動！三つの効果により、攻撃力は7600！」

空間が書き換えられ、銀時の前には、ヤマタノオロチのように頭がウジャウジャ並んだ機械仕掛けの龍と、ものすごく派手な衣装を着た褐色の坊主が並んだ。

銀時

「6000以上のモンスター二体って、俺を殺す気か……!?」

ヘルカイザー

「安心しろ。ここで殺したら後のお仕置きの意味がなくなる。速攻魔法『ハーフ・シャット』！お前の攻撃力を半分にし、戦闘耐性を付加する。『キメラテック・オーバー』は、融合素材モンスターの数だけ、相手モンスターに攻撃できる！」

近藤

「な、なぶり殺しだー！！」

誰もが銀時の（精神的）最後だと思った、そのときだった。

沖田（銀魂）

「チェーン発動！」

十代

「え？」

水を指す言葉が出たのは。

沖田

「『シフトチェンジ』！その対象を土方コイツに変更」

土方

「おい宗吾！テメエなに俺に移してんだ！？意味ねえだろ！」

沖田

「意味ならありますあ。土方さんをなぶり殺しにするというね」

土方

「宗吾貴様あー！！！！！」

ヘルカイザー

「…まあいい。もう一枚の『ハーフ・シャット』を銀時を対象にして発動し、『キメラテック・オーバー』で二人に攻撃！エターナル・レザルト・バースト！！ハアチレン…」

<しばらくの間音声のみをお楽しみください>

新八

「これ小説ですから音声も何もありますよ」

リーガン

「細かいことはいいの」

銀時

ライフ 4000 ↓ - 17600

土方

ライフ 4000 ↓ - 17600

ミレイ

「すごいオーバーキル…」

はやて

「ここまでできたら…笑うしかないで…」

土方

「くそ！だが宗吾の好きにはさせねえ！こついつとぎのために持ってた…ライフボトルを…」

???（CV：若本）

「なあにしてんだ？」

土方

「え？」

???（CV：若本）

「アイテムなぞ使ってんじゃねえ！
！」

土方

「なああああ！！？」

ユリ

「見事なまでに直撃したな」

スタン（TOD）

「でも…なんか変なんだよな」

カイル（TOD2）

「そうそう。なんかへんな角ついてるし…」

イーサン（ファンタシースターユニバース）

「マガシ（ファンタシースターユニバース）、おまえ…なにしてた？」

マガシ

「クラウチ（ファンタシースターユニバース）とあの小娘に無理やり改造させられた。元のボディに近かったからよかったものの…そうでなかったら双剣の錆にしてくれるところだったわ」

イーサン

「…」

リーガン

「『E』！『鋼の錬金術師』のエドワード・エルリック！の代わりに、ジャスデビ！お願いします！」

ジャスデビ

「「チビ！×（かける）」」

ブチッ！！

ジャスデビ

「と言われて×むちゃくちゃ×怒ってる！！エドワード・エルリック！！」

偽エド

「だあーれがギネス級ドチビじゃあああああ！！（大砲練成&発射）」

銀時

「誰もそこまで言っつてねえええええええ！！！！」

マトリックスでよける銀時。

エド

「だあああれえが米粒豆粒ミジンコ級ドチビじゃあああああ！
！！！！（右腕をハンマーに変えての大振り）」

デビット

「俺たちチビしか言ってねええええええ！」

ジャスデロ

「デビイイイイイ！！！」

ジャスデビの片割れ、デビットは星になりました。ムチャシヤガツ
テ！

リタ（TOV）

「あんたのせいでしょ！」

リーガン

「続いて『R』！これは……」

アルサル

「これは…なんだよ？」

リーガン

「『ライフストリーム・ドラゴン』による回復です！」

銀時

「よっしゃあー回復だあ！！！」

リーガン

「と見せかけて『レッド・デーモンズ・ドラゴン』！アブソリュー

ト・パワーフォース!!」

銀時

「ぬおおおおお!!」

銀時に向けられた紅蓮の炎を纏った腕は銀時をかすめて床を吹き飛ばした。

リーガン

「チッ! 避けられたか!」

銀時

「デメエ殺す気か!!?」

リーガン

「あなた『ハーフ・シャット』の効果で死ねないでしょ。それ以前にライフ0なのによくそんなに動けるな」

銀時

「ほっとけ!」

龍亜

「えっと... とりあえず、回復つと」

銀時

LP - 17600 ↓ 2000

銀時

「ふう」

神楽

「大丈夫アルか、銀ちゃん？」

銀時

「大丈夫なわきゃねえだろ。あんのクソみたいなこうげ…」

天上院吹雪

「おや、ぼくの攻撃があることを忘れてるみたいだね」

銀時

「やべ！」

クロウ（遊戯王5D、s）

「そういえば『光の護封壁』でライフを3000ポイント払ってるから吹雪のLPは1000！^{ライフ}『巨大化』の攻撃力二倍効果が適用される！」

翔（遊戯王GX）

「しかも巨大化してるから明日香（遊戯王GX）のときみたいに衣装が大きすぎて攻撃できないなんてことはなくなる！」

万条目（遊戯王GX）

「さすが師匠！そこまで考えていらしたとは！」

天上院吹雪

「フィニッシュだ！究極のステージ衣装を身に纏い、巨大化した『褐色のウォリアー』で、銀時に攻撃！」

新八

「銀さーん！！！」

桂

「銀時！」

神楽

「銀ちゃん!!」

妙

「盛り上がってるとこ悪いけど」

近藤

「な、何ですかお妙さん？ま、まさか、俺と…」

妙

「滅びの爆裂疾風弾！」

近藤

「ギヤアアアアア！」

妙

「あのハゲ、詰まってるわよ」

新八

「え？」

妙の言うとおり、褐色のウォリアーは攻撃モーションに入ってるにもかかわらず、そこから動かない。いや、動けなかった。そう、何かに縛られているように。

ジャック（遊戯王5D、s）

「まさか…」

翔

「衣装のライトアップのコードが引っかけたって攻撃できないとか？」

『褐色のウォリアー』

「うおおおお！！」

状況を脱しようと試みた『褐色のウォリアー』は、思いっきりコードを引きちぎった。ステージ衣装が脱げるのも省みずに。

『褐色のウォリアー』

攻撃力 7600 ↓ 1600

吹雪

「あれえ？戻っちゃった」

全員、総ズツコケ。

一応、腹いせのように殴る。

銀時

LP 2000 ↓ 400

銀時

「テムエ…俺を殴るとはいい度胸じゃねえか」

翔

「やっぱりだめだった！」

ジャック

「遊星には悪いが、このカードを使う機会が思い浮かばん」

『褐色のウォリアー』、再び着用。

『褐色のウォリアー』

攻撃力 1600 ↓ 7600

吹雪

「アハハ、ハハ、アハハ、ハハ…」

…これはもう笑うしかない。

明日香（遊戯王GX）

「兄さんったら…」

銀時

「もうガマンできねえ！『大嵐』でスポットライトもその衣装も吹っ飛んじまえ！」

突如大嵐が起こり、すべての魔法を吹き飛ばす！

吹雪

「しまった！」

『褐色のウォリアー』

「あゝれ〜！イヤン！ああ！」

衣装を吹き飛ばされ、元の大きさに戻った『褐色のウォリアー』は、一瞬胸元を隠したと思ったら、そのまま床へと落下した。

銀時

「イヤンってなんだ！テメエはホモか！つーかよくも散々コケにしてくれたなあ！『シルバー ソウルナックル』！」

銀時の右手が銀色にひかりだし、『褐色のウォリアー』を貫いた！

新八

「なんか、ムダにかっこいい！」

吹雪

LP 1000 ↓ 0

吹雪

「そんな馬鹿な！」

ヘルカイザー

「そもそも、これはデュエルなのか？」

違います。

リーガン

「というわけで、いろいろありましたが、これにて、『次元一甘党 決定戦』を、閉幕します！」

ミレイ

「そして、最後にこれを！」

リーガン

「これって、スイッチ?」

はやて

「あたしからのサプライズや」

リーガン

「俺のために?あ、ありがとう!ではさっそく!」

ポチッ

デデーン!!!

リーガン

「e?」

天の声(CV:若本)

「リーガン、アウトだああ!」

リーガン

「エ!?!ドウィウコト!?!」

ミレイ

「何ヶ月も待たせた罰として、最後に喰らいなさい！」

リーガン

「こんなサプライズはいやだあゝゝ！！！」

エルミン

「あ！お外に逃げた！」

バルバトス（TOD）

「俺様を出さなかったからには、覚悟できてるんだよなあ！！？」

リーガン

「今でてるでしょ！！！」

バルバトス

「知ったことかあああ！ワールドデストロイヤー！！！」

リーガン

「ひでぶ！！！」

バルバトス

「おまけだあああ！震天裂空斬光旋風滅碎神罰割殺撃イイイ！！！」

リーガン

「お前の技じゃねえええええええええええ！！！！！」

ルルーシュ

「自業自得だな。さて、こちらも後は残りを大食い組みに任せ……」

アルサル

「って、なんで全員酔ってるんだ!？」

カレン

「巨大チヨコが出たあたりで、玉城さんが……」

ルルーシュ

「玉城…あいつは降格だな」

アルサル

「今酔ってないのはその二人だけか」

シオ（＜ネタバレ＞のため意味なし）

「おやつ!おやつ!」

リッド（寝ていたため被害なし）

「グウ」

アルサル

「で、どうする?これ……」

ルルーシュ

「……」

結局、四人で処理することになったそうなの。

ちなみに、デスコースはなんだったのかというと、

桂

「ぐはっ！」

アーチエ（TOP）

「こら！気絶してる場合じゃないでしょ！さてお次は『シェフの気まぐれ！コルトバのスープ』！」

桂

「これまでの…6品すべて……マズイとは……」

アーチエ

「ライティング！」

桂

「ギヤアアアア！！！」

チエスター（TOP）

「悪夢だな」

アッシュ（TOA）

「ああ」

閉会式（後書き）

とりあえず、完結です。

正直、コメディーをなめてました。こんなに難しいものだったとは…次回作を造るとしたら、もっと構成をきちんとしておこうと思ってるので、そちらもごらんになられるのでしたら幸いです。では、次回まで、ご愛読、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3005u/>

次元一甘党決定戦！

2011年12月31日21時47分発行